

和歌山市 子ども・子育て支援事業に関する
ニーズ調査

【結果報告書】
(クロス集計抜粋)

平成 26 年3月

和歌山市

就学前児童調査・小学生児童調査

子どもの育ちをめぐる環境について

●子育てに日常的に関わっている方（施設）×地区（ブロック別）

〔就学前児童調査…問7・小学生児童調査…問11〕

子育てに日常的に関わっている方（施設）を地区別にみると、各地区ともに「父母ともに」が最も高くなっています。また、幼稚園と保育所に着目すると、1ブロック、2ブロック、3ブロック、5ブロックは幼稚園に比べ、保育所が高くなっている一方、4ブロック、6ブロックは幼稚園のほうが高くなっています。

上段:度数 下段:%	父母ともに	母親	父親	祖父母	認定こども園	幼稚園	保育所	その他	不明・無回答
1ブロック (N=281)	166 59.1	100 35.6	12 4.3	86 30.6	4 1.4	61 21.7	86 30.6	6 2.1	0 0.0
2ブロック (N=204)	117 57.4	77 37.7	11 5.4	72 35.3	10 4.9	35 17.2	62 30.4	15 7.4	0 0.0
3ブロック (N=178)	108 60.7	62 34.8	3 1.7	55 30.9	0 0.0	35 19.7	59 33.1	6 3.4	0 0.0
4ブロック (N=154)	83 53.9	66 42.9	7 4.5	48 31.2	4 2.6	41 26.6	39 25.3	6 3.9	0 0.0
5ブロック (N=167)	94 56.3	65 38.9	7 4.2	52 31.1	0 0.0	43 25.7	47 28.1	6 3.6	1 0.6
6ブロック (N=214)	119 55.6	78 36.4	13 6.1	58 27.1	7 3.3	62 29.0	51 23.8	11 5.1	0 0.0

●子育てに日常的に関わっている方（施設）

×妊娠中、出産後に母親が不安定になったことの有無

子育てに日常的に関わっている方（施設）を妊娠中、出産後に母親が不安定になったことの有無でみると、よくあった人は、ほとんどなかった人やなかった人に比べ、「父母ともに」が低く、「母親」の割合が高くなっています。また、よくあった人は、保育所の割合が比較的高く、保育所の役割も重要になっていることがうかがえます。

上段:度数 下段:%	父母ともに	母親	父親	祖父母	認定こども園	幼稚園	保育所	その他	不明・無回答
よくあった (N=231)	103 44.6	114 49.4	12 5.2	69 29.9	5 2.2	52 22.5	80 34.6	13 5.6	2 0.9
時々あった (N=554)	336 60.6	192 34.7	32 5.8	164 29.6	12 2.2	138 24.9	146 26.4	23 4.2	0 0.0
ほとんどなかった (N=292)	173 59.2	106 36.3	5 1.7	105 36.0	6 2.1	54 18.5	83 28.4	6 2.1	2 0.7
なかった (N=141)	90 63.8	44 31.2	5 3.5	34 24.1	2 1.4	34 24.1	39 27.7	6 4.3	0 0.0

●子育てに日常的に関わっている方（施設）×子育ての不安・負担感の有無

子育てに日常的に関わっている方（施設）を子育ての不安・負担感の有無でみると、就学前児童、小学生児童ともに、非常に感じる人やなんとなく感じる人は、あまり感じない人やまったく感じない人に比べ、「父母ともに」が低くなっています。また、非常に感じる人は、「保育所」が4割近く、「小学校」が4割強、「学童保育」が2割近くと、比較的高くなっています。

◆就学前児童

上段:度数 下段:%	父母ともに	母親	父親	祖父母	認定こども園	幼稚園	保育所	その他	不明・無回答
非常に不安や負担を感じる (N=94)	41 43.6	47 50.0	6 6.4	26 27.7	0 0.0	21 22.3	37 39.4	3 3.2	0 0.0
なんとなく不安や負担を感じる (N=421)	224 53.2	180 42.8	21 5.0	118 28.0	9 2.1	101 24.0	119 28.3	22 5.2	1 0.2
あまり不安や負担などは感じない (N=415)	271 65.3	125 30.1	14 3.4	130 31.3	11 2.7	92 22.2	110 26.5	11 2.7	2 0.5
まったく感じない (N=105)	62 59.0	42 40.0	5 4.8	33 31.4	2 1.9	17 16.2	25 23.8	3 2.9	0 0.0

◆小学生児童

上段:度数 下段:%	父母ともに	母親	父親	祖父母	小学校	学童保育(若竹学級等)	その他	不明・無回答
非常に不安や負担を感じる (N=33)	16 48.5	14 42.4	2 6.1	3 9.1	14 42.4	6 18.2	0 0.0	1 3.0
なんとなく不安や負担を感じる (N=169)	89 52.7	79 46.7	4 2.4	47 27.8	60 35.5	25 14.8	1 0.6	1 0.6
あまり不安や負担などは感じない (N=143)	93 65.0	49 34.3	6 4.2	34 23.8	57 39.9	14 9.8	1 0.7	0 0.0
まったく感じない (N=30)	20 66.7	9 30.0	0 0.0	7 23.3	8 26.7	0 0.0	1 3.3	0 0.0

●子育てや教育に影響すると思われる環境×地区別〔就学前児童調査…問8・小学生児童調査…問12〕

子育てや教育に影響すると思われる環境を地区別にみると、各地区ともに「家庭」が9割以上と最も高くなっています。

幼稚園と保育所を比べると、2ブロック、3ブロックでは「保育所」が高く、1ブロック、5ブロックでは同水準、4ブロック、6ブロックでは「幼稚園」が高く、傾向の相違がうかがえます。

上段:度数 下段:%	家庭	地域	認定こども園	幼稚園	保育所	その他	不明・無回答
1ブロック (N=281)	259 92.2	56 19.9	10 3.6	90 32.0	95 33.8	9 3.2	1 0.4
2ブロック (N=204)	186 91.2	39 19.1	16 7.8	45 22.1	66 32.4	6 2.9	0 0.0
3ブロック (N=178)	164 92.1	22 12.4	1 0.6	51 28.7	59 33.1	3 1.7	0 0.0
4ブロック (N=154)	141 91.6	26 16.9	6 3.9	52 33.8	35 22.7	2 1.3	3 1.9
5ブロック (N=167)	152 91.0	27 16.2	2 1.2	52 31.1	52 31.1	7 4.2	2 1.2
6ブロック (N=214)	199 93.0	42 19.6	11 5.1	77 36.0	55 25.7	11 5.1	0 0.0

●子育てや教育に影響すると思われる環境×子育ての不安・負担感の有無

子育てや教育に影響すると思われる環境を子育ての不安・負担感の有無でみると、就学前児童、小学生児童ともに「家庭」が8割以上と最も高くなっています。

就学前児童、小学生児童ともに「非常に不安や負担を感じる」人は、「あまり不安や負担などを感じない」人「まったく感じない」人に比べ、「幼稚園」「保育所」「小学校」の割合が高く、子育てや教育における不安や負担感を軽減するうえで重要な役割を担っていることがうかがえます。

◆就学前児童

上段:度数 下段:%	家庭	地域	認定こども園	幼稚園	保育所	その他	不明・無回答
非常に不安や負担を感じる (N=94)	87 92.6	18 19.1	5 5.3	31 33.0	41 43.6	3 3.2	0 0.0
なんとなく不安や負担を感じる (N=421)	392 93.1	91 21.6	12 2.9	134 31.8	122 29.0	14 3.3	2 0.5
あまり不安や負担などは感じない (N=415)	381 91.8	62 14.9	17 4.1	120 28.9	115 27.7	12 2.9	4 1.0
まったく感じない (N=105)	94 89.5	13 12.4	5 4.8	23 21.9	30 28.6	3 2.9	0 0.0

◆小学生児童

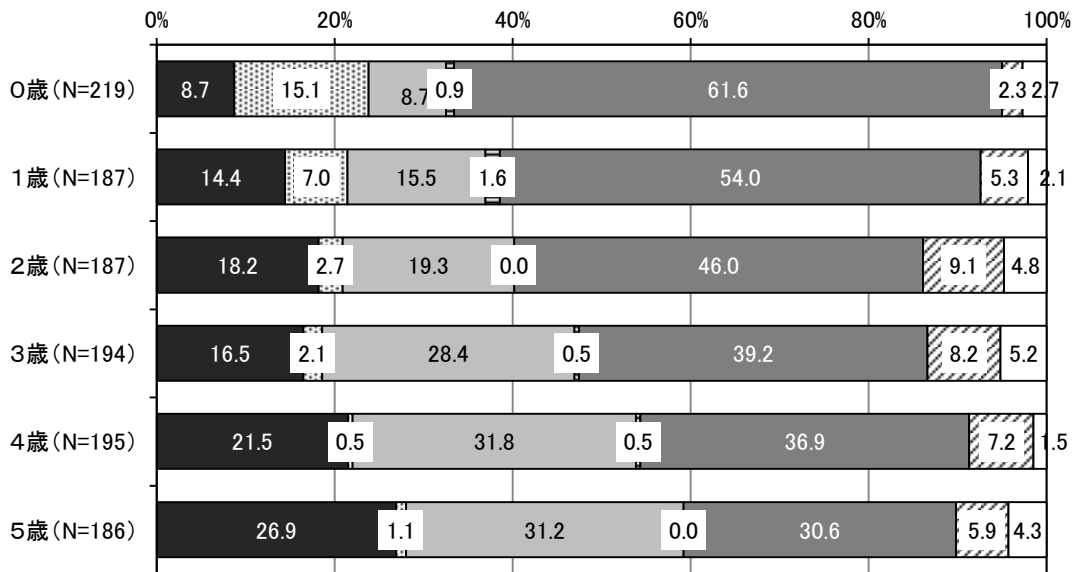
上段:度数 下段:%	家庭	地域	小学校	学童保育(若竹学級等)	その他	不明・無回答
非常に不安や負担を感じる (N=33)	28 84.8	5 15.2	29 87.9	5 15.2	2 6.1	1 3.0
なんとなく不安や負担を感じる (N=169)	159 94.1	31 18.3	127 75.1	9 5.3	5 3.0	1 0.6
あまり不安や負担などは感じない (N=143)	134 93.7	28 19.6	105 73.4	7 4.9	3 2.1	1 0.7
まったく感じない (N=30)	28 93.3	3 10.0	20 66.7	1 3.3	0 0.0	0 0.0

保護者の就労状況について

●保護者（母親）の就労状況×年齢〔就学前児童調査…問 12〕

保護者の就労状況を年齢別にみると、子どもの年齢があがるにつれ、フルタイムでの就業者が増え、「以前は就労していたが、現在は就労していない」の割合が減少していく傾向がうかがえます。

また、3歳あたりでフルタイムやパート・アルバイトでの就労の割合が上昇している傾向がうかがえます。



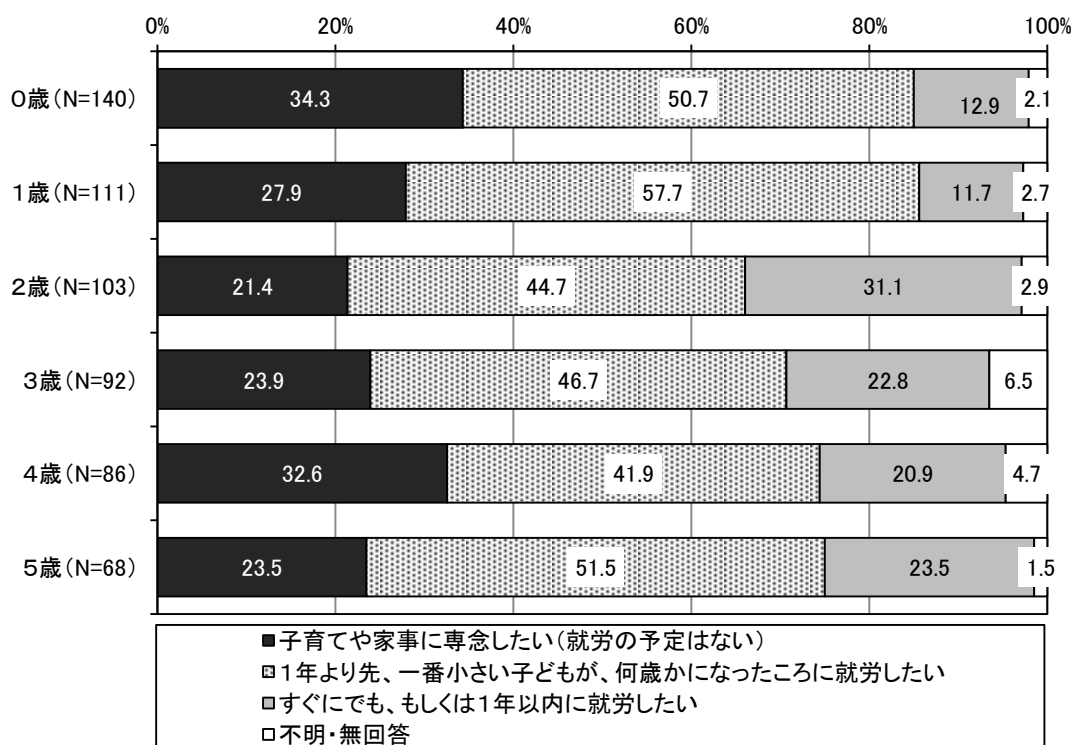
- 就労している(フルタイム;産休・育休・介護休業中は含まない)
- ▣ 就労している(フルタイムだが、産休・育休・介護休業中)
- 就労している(パートタイム、アルバイト等)
- ▤ 就労している(パートタイム・アルバイト等だが、産休・育休・介護休業中)
- ▥ 以前は就労していたが、現在は就労していない
- これまでに就労したことがない
- 不明・無回答

「以前は就労していたが、現在は就労していない」または「これまでに就労したことがない」を選んだ方

●現在、就労していない方の就労希望×年齢〔就学前児童調査…問 12-1〕

現在、就労していない方の就労希望を年齢別にみると、年齢があがるにつれ「子育てや家事に専念したい（就労の予定はない）」の割合が低下する傾向があり、就労意向が高まっています。

また、「1年より先、一番小さい子どもが、何歳かになったところに就労したい」「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」に着目すると、年齢があがるにつれ、「1年より先、一番小さい子どもが、何歳かになったところに就労したい」が低下する傾向がみられ、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が3歳以降で2～3割に上昇しています。



平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について（就学前児童）

●平日に利用している教育・保育事業×年齢〔就学前児童調査…問 13-1〕

●平日の教育・保育事業として「定期的に」利用したいと考える事業×年齢

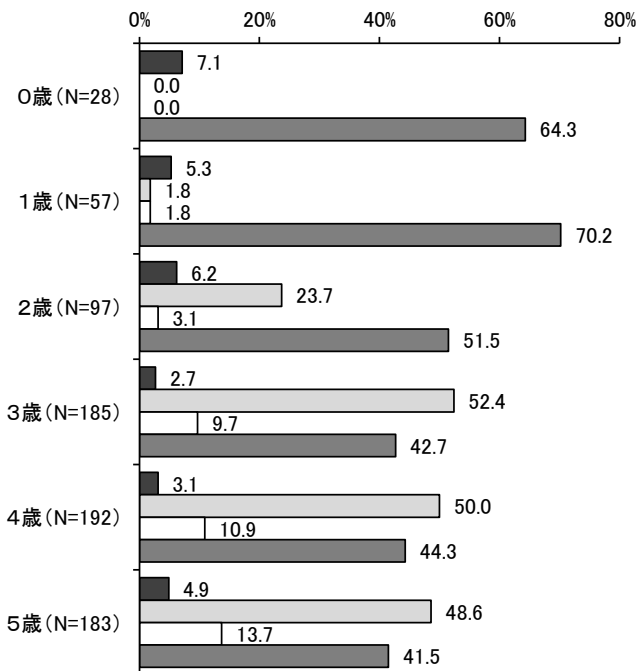
〔就学前児童調査…問 14〕

平日に利用している教育・保育事業を年齢別にみると、0～2歳では保育所を利用している割合が高く、3歳以降から幼稚園の利用割合が保育所の利用割合を上回っています。

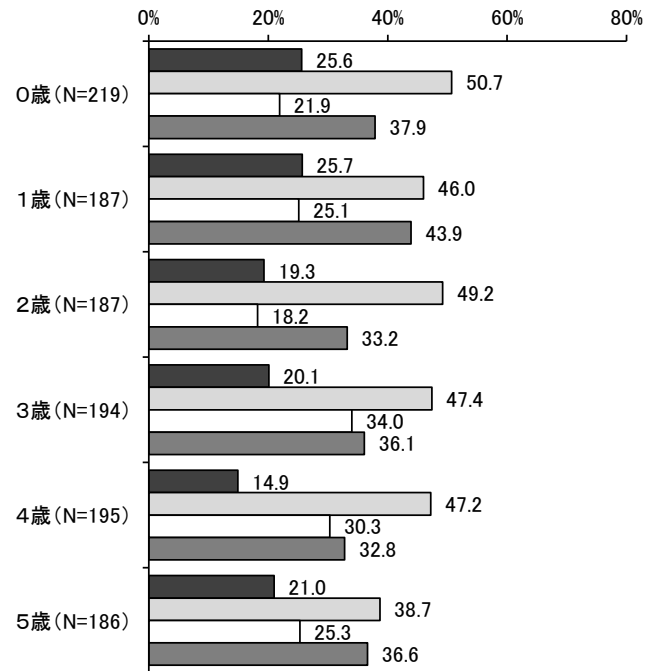
平日の教育・保育事業の利用意向を年齢別にみると、各年齢ともに幼稚園の利用意向が高くなっていきます。また、利用状況に比べ、幼稚園の預かり保育や認定こども園の利用意向も高くなっていきます。

子どもや保護者が希望する教育・保育事業が柔軟に提供されるよう、事業展開が必要となっています。

◆現在利用している教育・保育事業（4件）



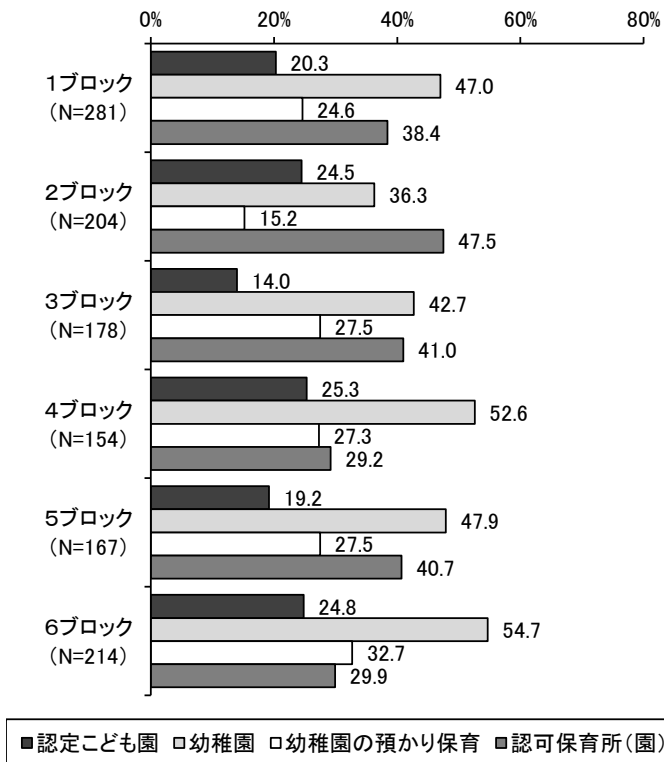
◆今後利用したい教育・保育事業（4件）



■認定こども園 □幼稚園 □幼稚園の預かり保育 ■認可保育所(園)

■認定こども園 □幼稚園 □幼稚園の預かり保育 ■認可保育所(園)

●平日の教育・保育事業として「定期的に」利用したいと考える事業×地区



平日に利用している教育・保育事業を地区別にみると、2ブロックでは、保育所への意向が高い一方、その他のブロックでは幼稚園への意向が高くなっています。特に4ブロック、6ブロックでは保育所に比べ20ポイント以上の差がみられます。

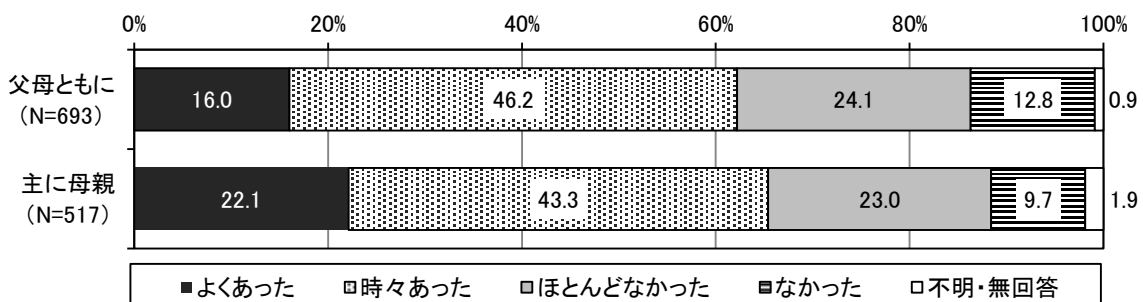
また、認定こども園については、2ブロックを除き、2割程度の意向となっています。

妊娠中や出産・子育ての不安と悩みについて（就学前児童）

●妊娠中、あるいは出産後、母親が精神的に不安定になったことの有無

×教育を主に行っている人〔就学前児童調査…問30〕

妊娠中、あるいは出産後、母親が精神的に不安定になったことの有無について教育を主に行っている人別にみると、主に母親に比べ、父母ともに行っているほうが「よくあった」「時々あった」を合わせた『あった』の割合が低く、「ほとんどなかった」「なかった」を合わせた『なかった』が高くなっている傾向がみられます。



●妊娠中や出産後のサポートとして、特に必要なサービス

×妊娠中、出産後に母親が不安定になったことの有無〔就学前児童調査…問 31〕

妊娠中や出産後のサポートとして、特に必要なサービスを妊娠中、出産後に母親が不安定になったことの有無でみると、「よくあった」人「時々あった」人と「ほとんどなかった」人「なかった」人を比べると、「母親の健康面での相談」「助産師・保健師等の家庭訪問による指導」「買い物、食事の支度などの家事支援」「子育て経験者から話を聞ける場の提供」で比較的差が生じており、「よくあった」人「時々あった」人で割合が高くなっています。

母親の健康面をはじめ、育児の孤立化の防止や育児の知識の身につける機会の提供などの必要性がうかがえます。

上段:度数 下段:%	母親の健康面での相談	赤ちゃんの育児相談	助産師・保健師等の家庭訪問による指導	赤ちゃんの沐浴などのヘルパー	買い物・食事のしたくなどの家事支援	兄弟姉妹をみてるサポート
よくあった (N=231)	73 31.6	95 41.1	64 27.7	14 6.1	74 32.0	65 28.1
時々あった (N=554)	125 22.6	228 41.2	122 22.0	18 3.2	163 29.4	196 35.4
ほとんどなかった (N=292)	61 20.9	123 42.1	42 14.4	15 5.1	75 25.7	90 30.8
なかった (N=141)	26 18.4	47 33.3	26 18.4	3 2.1	38 27.0	41 29.1

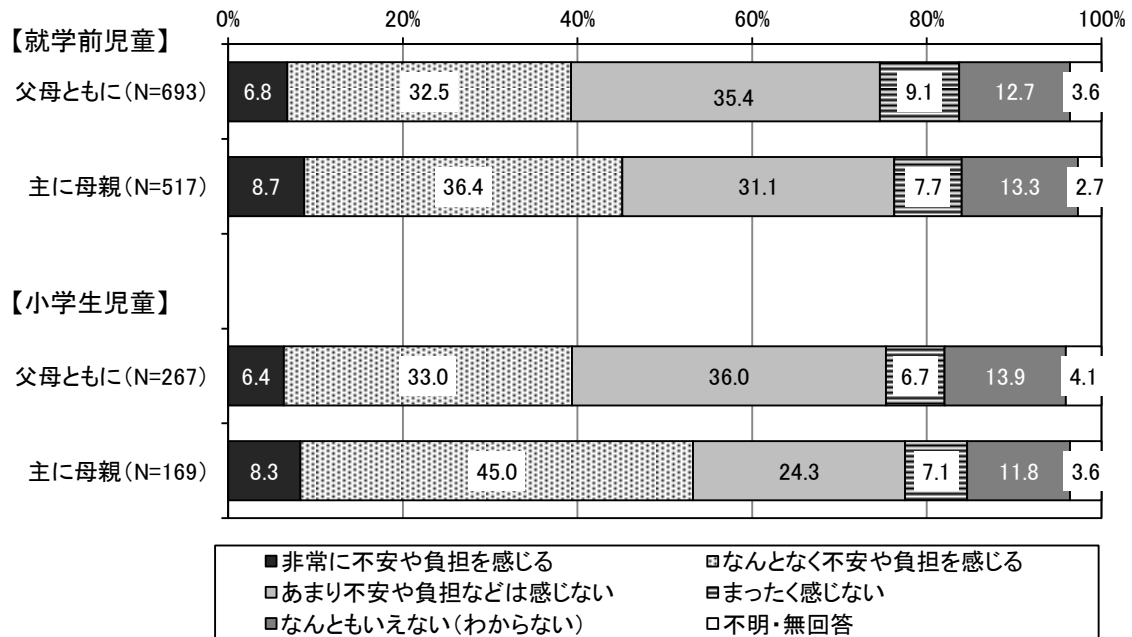
上段:度数 下段:%	子育て経験者から話を聞ける場の提供	子育て中の人との交流	地域社会での子育て支援	その他	不明・無回答
よくあった (N=231)	41 17.7	78 33.8	30 13.0	14 6.1	5 2.2
時々あった (N=554)	82 14.8	175 31.6	60 10.8	9 1.6	18 3.2
ほとんどなかった (N=292)	24 8.2	95 32.5	43 14.7	5 1.7	7 2.4
なかった (N=141)	12 8.5	34 24.1	20 14.2	5 3.5	12 8.5

子育てに関する不安や悩みに関して

●子育てに関する不安感や負担感の有無×教育を主に行っている人

〔就学前児童調査…問 32・小学生児童調査…問 24〕

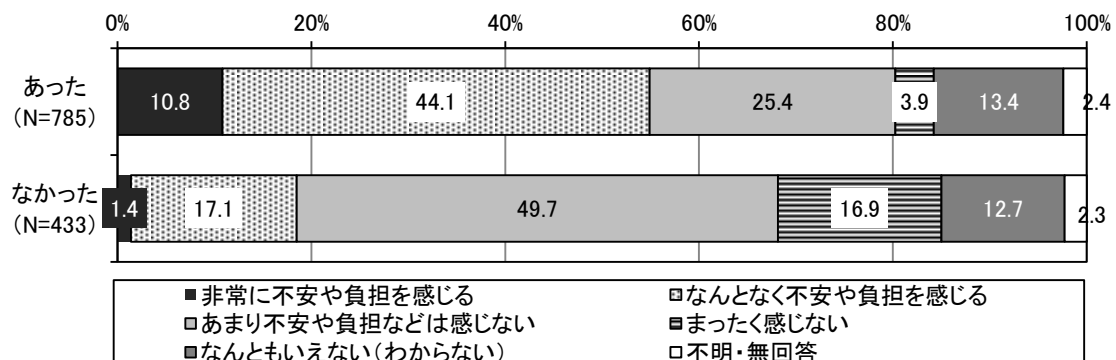
子育てに関する不安感や負担感について、教育を主に行っている人別にみると、就学前児童、小学生児童ともに父母ともに比べ、主に母親が教育を行っている人のほうが「非常に不安や負担を感じる」「なんとなく不安や負担を感じる」を合わせた『不安や負担を感じる』が高くなっています。



●子育てに関する不安感や負担感の有無

×妊娠中、出産後に母親が不安定になったことの有無

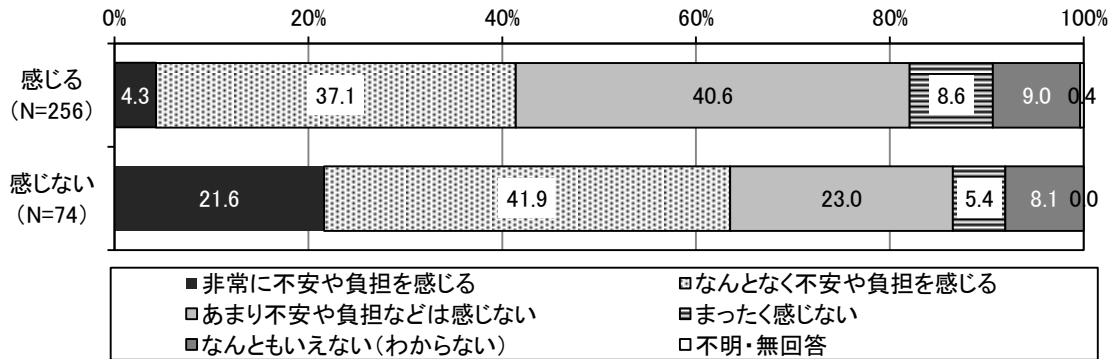
子育てに関する不安感や負担感について、妊娠中、出産後に母親が不安定になったことの有無でみると、妊娠中、出産後に母親が不安定になったことがなかった人に比べ、妊娠中、出産後に母親が不安定になったことがあった人のほうが「非常に不安や負担を感じる」「なんとなく不安や負担を感じる」を合わせた『不安や負担を感じる』が高く、36.4ポイントの差がみられます。



●子育てに関する不安感や負担感の有無

×家庭で、仕事と生活の調和が図られていると感じるかの有無

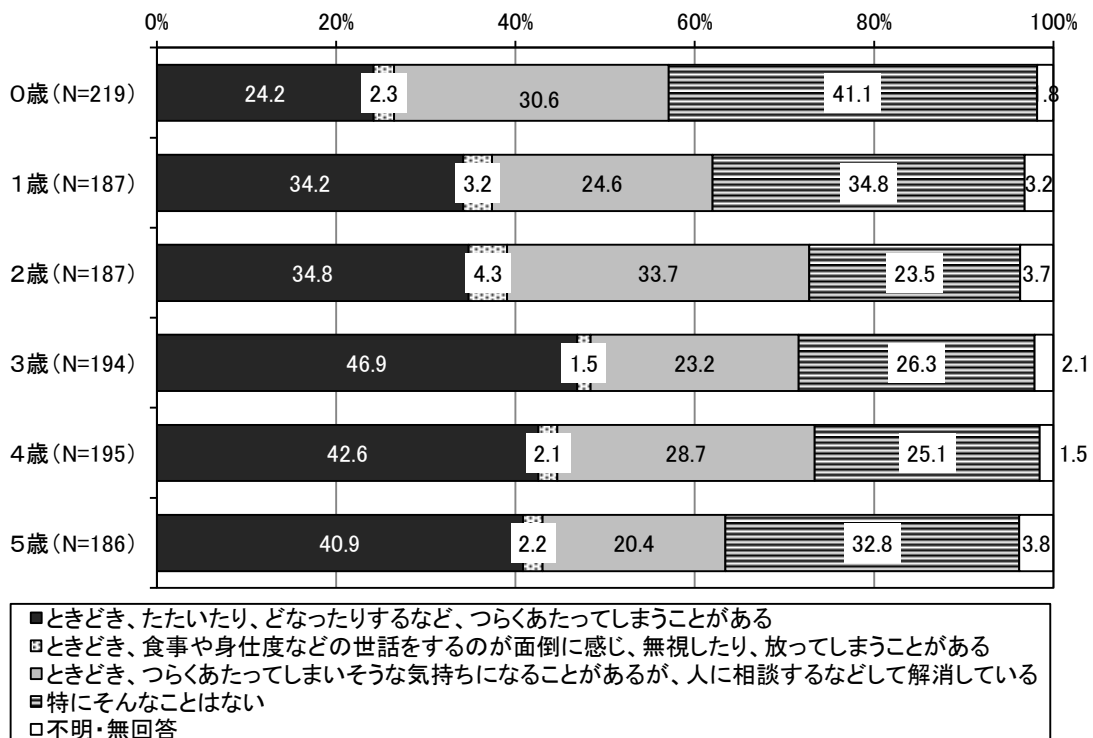
子育てに関する不安感や負担感について、家庭で、仕事と生活の調和が図られていると感じるかの有無でみると、感じる人に比べ、感じない人のほうが「非常に不安や負担を感じる」「なんとなく不安や負担を感じる」「なんとなく不安や負担を感じる」を合わせた『不安や負担を感じる』が高く、22.1ポイントの差がみられます。



●子育てで子どもにつらくあたってしまうことの有無×年齢

[就学前児童調査…問 34・小学生児童調査…問 26]

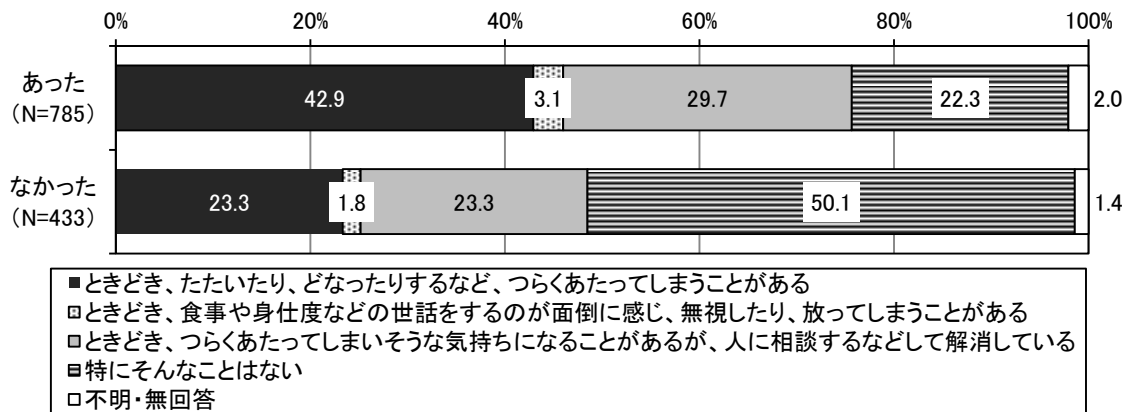
子育ての悩みや不安から、子どもにつらくあたってしまうことの有無について年齢別にみると、「ときどき、たいたたり、どなったりするなど、つらくあたってしまうことがある」が3歳で5割近くまで上昇、4歳以降では4割台となっています。



●子育てで子どもにつらくあたってしまうことの有無

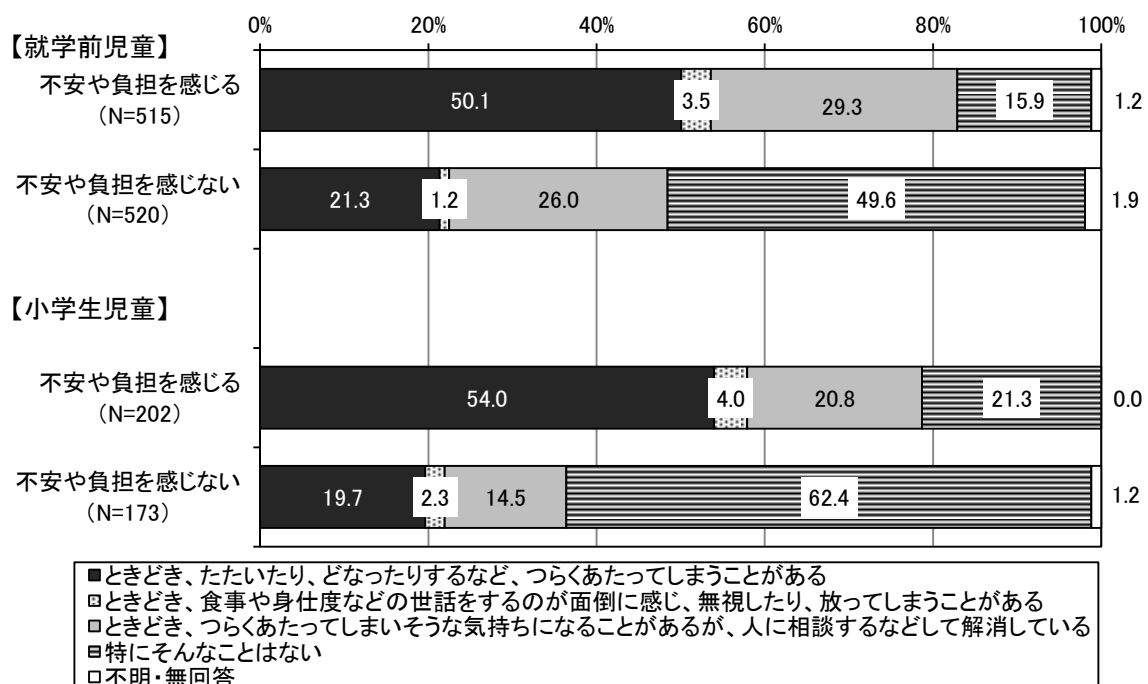
×妊娠中、出産後に母親が不安定になったことの有無

子育ての悩みや不安から、子どもにつらくあたってしまうことの有無について妊娠中、出産後に母親が不安定になったことの有無でみると、あった人のほうが「ときどき、たいたり、どなったりするなど、つらくあたってしまうことがある」「ときどき、食事や身支度などの世話をするのが面倒に感じ、無視したり、放ってしまうことがある」の割合が高く、「特にそんなことはない」の割合が低くなっています。



●子育てで子どもにつらくあたってしまうことの有無×子育ての不安・負担感の有無

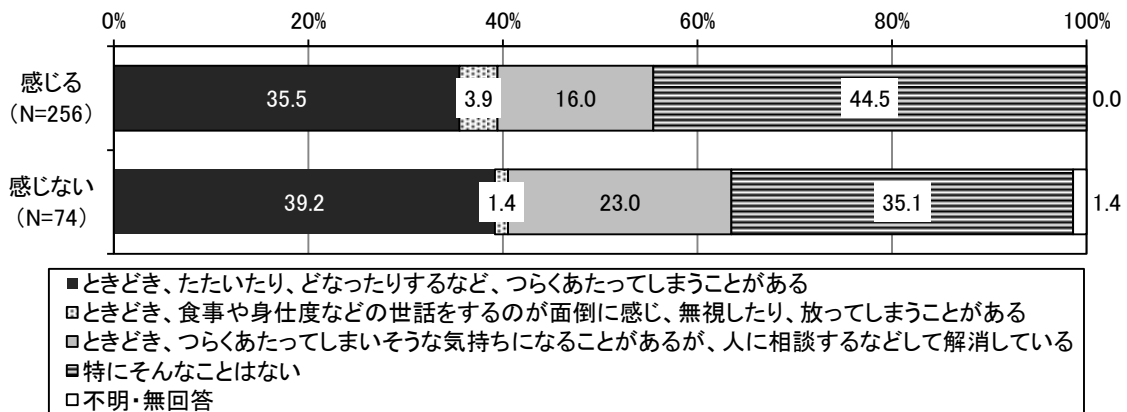
子育ての悩みや不安から、子どもにつらくあたってしまうことの有無について子育ての不安・負担感の有無でみると、就学前児童、小学生児童ともに不安や負担を感じる人のほうが「ときどき、たいたり、どなったりするなど、つらくあたってしまうことがある」「ときどき、食事や身支度などの世話をするのが面倒に感じ、無視したり、放ってしまうことがある」の割合が高く、「特にそんなことはない」の割合が低くなっています。



●子育てで子どもにつらくあたってしまうことの有無

×家庭で、仕事と生活の調和が図られていると感じるかの有無

子育ての悩みや不安から、子どもにつらくあたってしまうことの有無について家庭で、仕事と生活の調和が図られていると感じるかの有無でみると、感じない人のほうが「ときどき、たいたり、どなったりするなど、つらくあたってしまうことがある」「ときどき、食事や身支度などの世話をするのが面倒に感じ、無視したり、放ってしまうことがある」の割合が比較的高く、「特にそんなことはない」の割合が低くなっています。

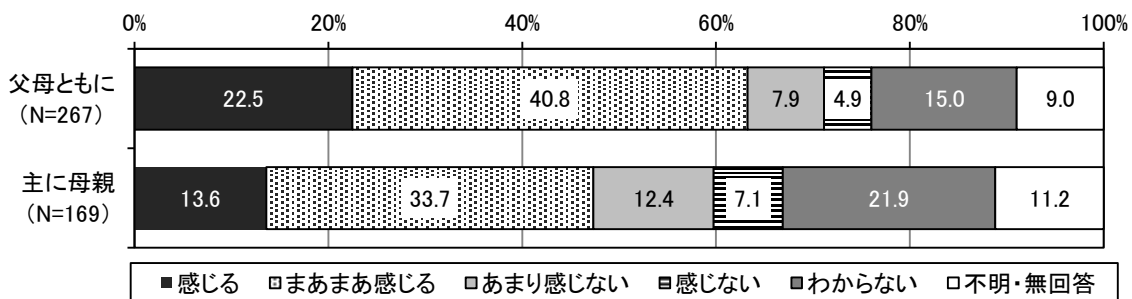


ワーク・ライフ・バランスについて（小学生児童）

●仕事と生活の調和が図られていると感じるか×教育を主に行っている人

〔小学生児童調査…問 23-4〕

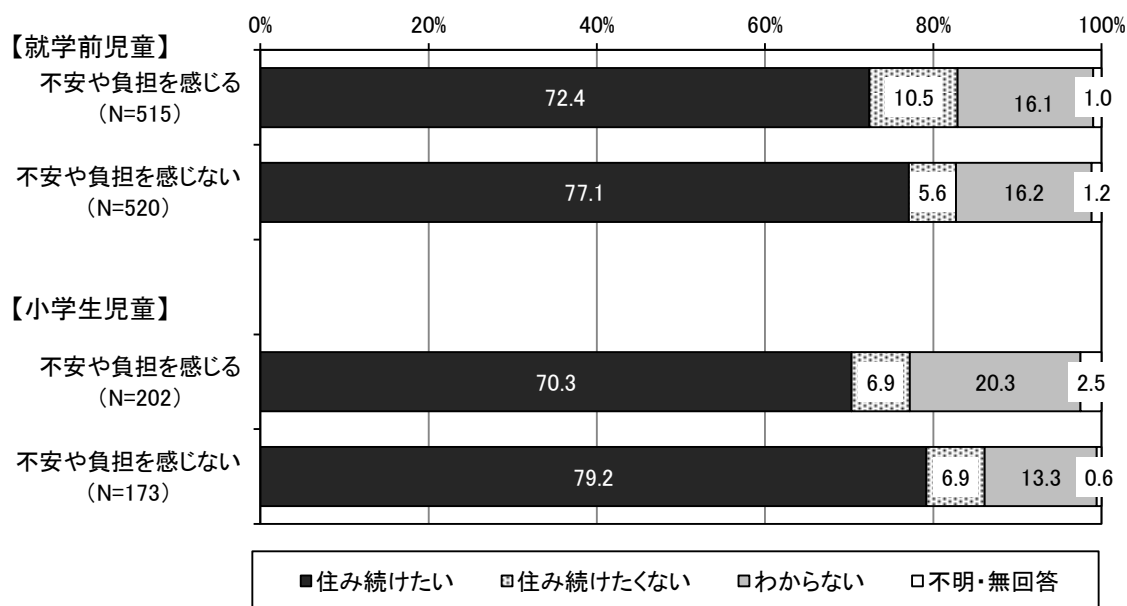
家庭で、仕事と生活の調和が図られていると感じるかについて教育を主に行っている人別にみると、主に母親に比べ、父母ともに教育を行っている人のほうが「感じる」「まあまあ感じる」を合わせた『感じる』が63.3%と、16ポイント高くなっています。



和歌山市での子育てや子育て支援サービスについて

●居住願望×子育ての不安・負担感の有無〔就学前児童調査…問 38、小学生児童調査…問 34〕

居住願望について子育ての不安・負担感の有無でみると、就学前児童、小学生児童ともに不安や負担を感じる人に比べ、不安や負担を感じない人のほうが、定住意向が比較的高くなっており、不安や負担がなく子育てができる環境をつくることで、定住意向も高まり、定住の促進につながる可以考虑。



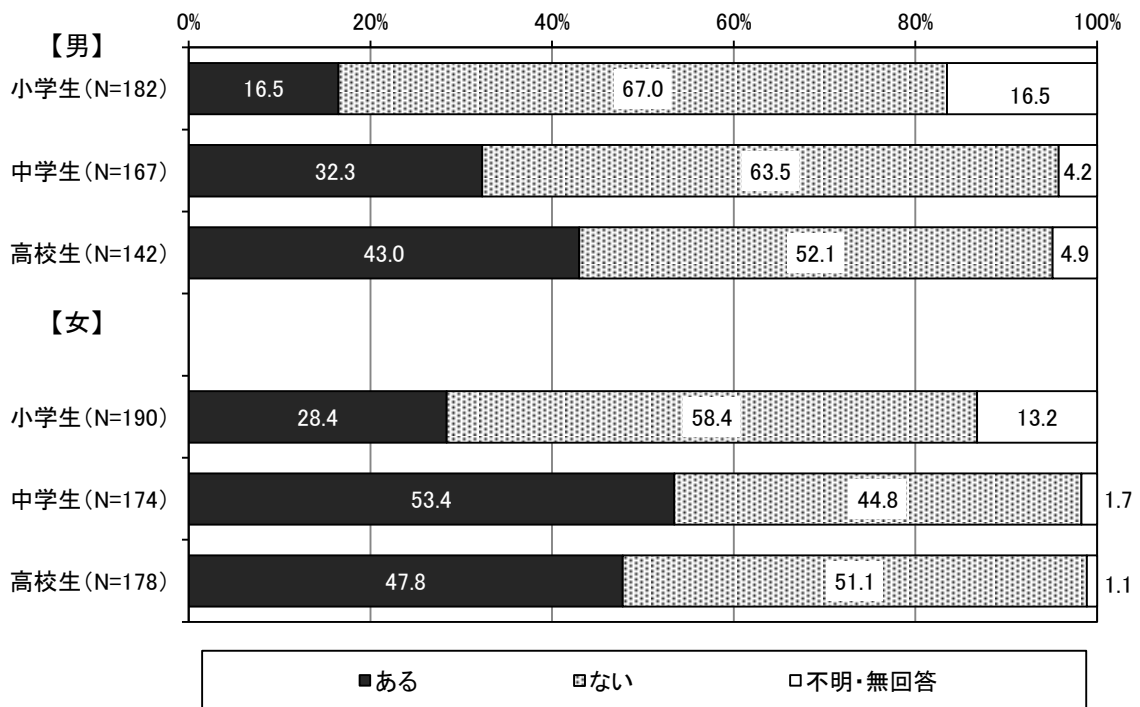
小学生・中学生・高校生調査

日常生活の様子やふだん思っていることについて

●悩んでいることの有無×性別〔小中高校生調査…問 18〕

悩んでいることの有無について性別にみると、各学年ともに男性に比べ、女性のほうが悩みが「ある」割合が高く、高校生で 47.8%、中学生で 53.4%となっています。

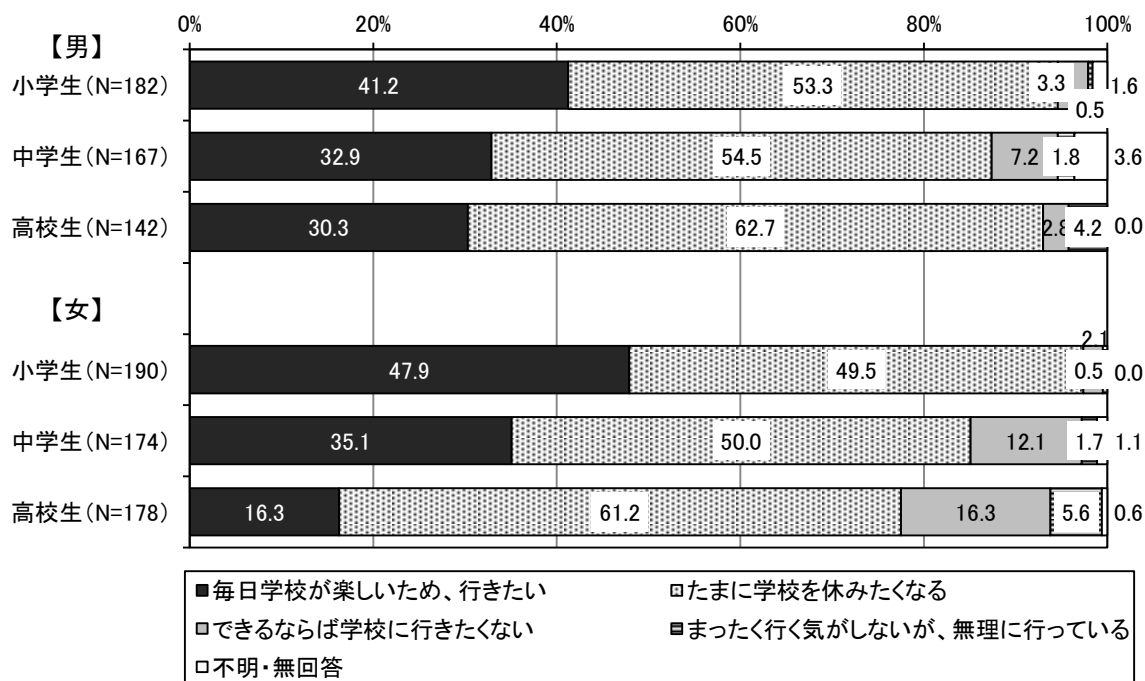
男性では、年代があがるにつれ、悩みが「ある」割合が上昇していますが、女性では中学生の割合が最も高くなっています。



●学校に行くことについて、感じること×性別〔小中高校生調査…問 20〕

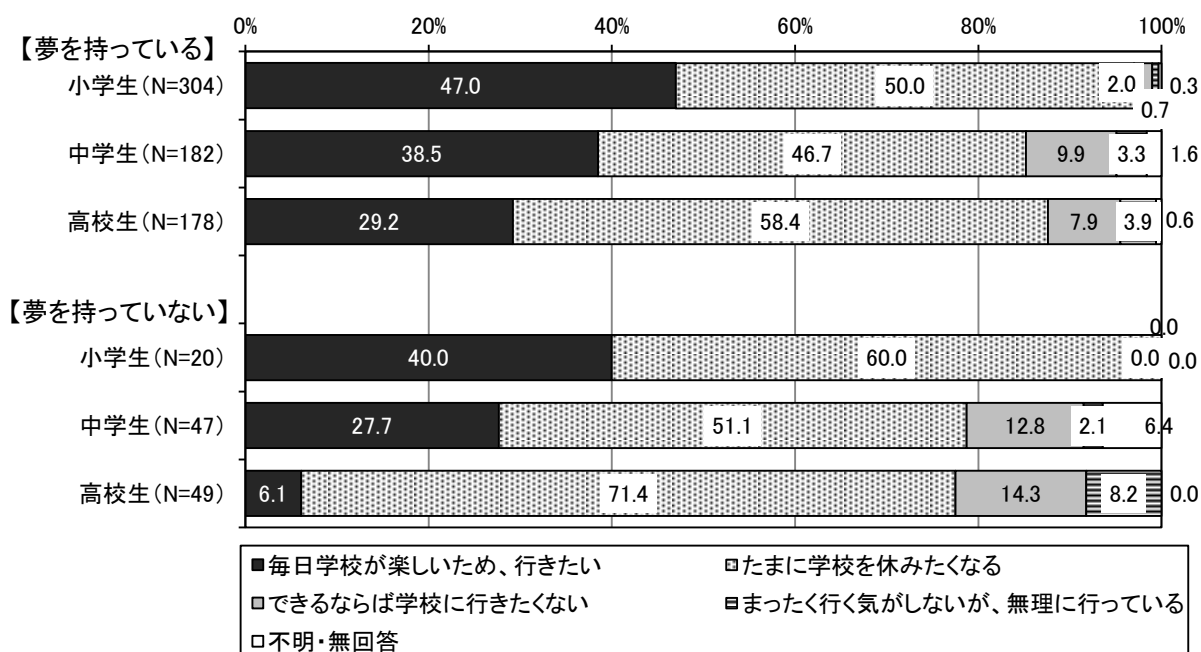
学校に行くことについて、感じることについて性別にみると、各年代・性別ともに「たまに学校を休みたくなる」が最も高くなっており、次いで「毎日が楽しいため、行きたい」となっています。

一方、高校生の女性、中学生の女性では「できるならば学校に行きたくない」が1～2割近くと、男性に比べ、比較的高くなっています。



●学校に行くことについて、感じること×夢の有無

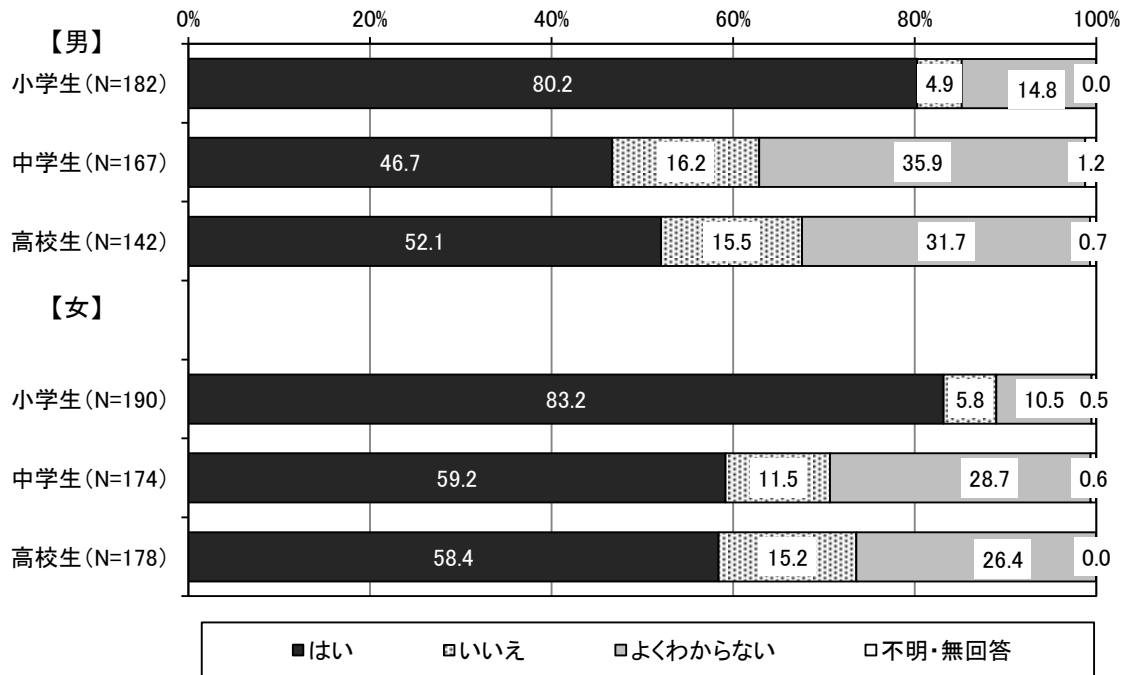
学校に行くことについて、感じることについて夢の有無でみると、中学生、高校生において夢を持っている人のほうが「毎日学校が楽しいため、行きたい」割合が高い傾向がみられます。



将来のことについて

●将来の夢の有無×性別〔小中高校生調査…問 21〕

将来の夢の有無について性別にみると、小学生は男女ともに8割以上が「ある」と回答しています。また、中学生、高校生になると「ある」割合が低下していますが、各年代ともに男性に比べ、女性のほうが「ある」割合が高くなっています。



●将来における仕事や家庭での生活×性別〔小中高校生調査…問 26〕

将来における仕事や家庭での生活について性別にみると、各学年・性別ともに「仕事をするこも家庭での生活も、両立した生活をしている」が最も高く、5割以上となっています。特に高校生では女性に比べ、男性のほうが高くなっています。

女性においては、男性に比べ、「仕事よりも、家族や子どもと過ごすことを大事にした生活をしている」割合が高くなっています。

